～『家族で沖縄！ゆいまぁるの旅』～を終えて。 ボランティア ・スタッフの方々から、未来へ繋がるメッセージが届きました。

3月25日～27日、七ヶ浜の家族の皆様と「家族で沖縄！ゆいまぁるの旅」へ同行させていただきました。
正直申し上げますと、最初は、震災に直面された皆様とご一緒するにあたり、３日間、どのように接したらいいのだろう？と行く前から不安に感じることが多くありましたが、七ヶ浜の皆様と一緒の時間を過ごすごとに、少しずつ皆様の笑顔と触れ合うことができて、笑顔に触れるたび、「ご一緒できて本当によかった」と心から思いました。
それでも、やはり、３日間の間ずっと、「七ヶ浜のみなさんは本当に楽しんでくださっているかな」と、毎時、不安に感じながらの３日間でしたので、旅を終えて帰ってきた今でも、その不安はずっと私の胸の中にあります。
昨年３月１１日の震災後、みなさんがそうだと思いますが、私自身も震災のことを考えることが多くありました。何ができるだろう、何をすべきだろう、と考えても考えても明確な答えはでませんが、それでもずっと考えてきました。そんな中、この旅に同行させてもらって、この３日間は、実際に被災された方とともに時間を過ごすことで、これまでとは違ったもっと深い思いで震災という事実を考えさせられたように思います。
例えば、お子様やお父様、お母様の笑顔に触れるたび、逆に、この笑顔の反対側にどれだけの涙があったのだろう？と感じてしまったり、物を大事にするようになったという話を聞いて、震災のことを考えているつもりと言いながらも自分たちがどれだけ物が大事にできていないんだろうと情けなくなったり、家族が一番だよ、という話を聞いて、家族という存在の偉大さを改めて痛感しました。
一方で、前述のとおり、３日の間ずっと、「本当に楽しんでくださっているのかな」という気持ちがありましたので、いろんな折りに不安を感じてしまいました。
私が個人的に一番不安になったのは、２日目夜の交流会にて、七ヶ浜の方々に震災時の様子や困ったことなどの体験談を聞かせていただくことになったことです。せっかくの旅なのに、七ヶ浜のみなさんに震災の嫌な経験を思い出させてしまうのではないか、お子さんは大丈夫だろうか、とすごく不安になりました。勇気をもって、私たちにそのお話をしてくださったご家族の方に、心から感謝したと同時に、お子さんは大丈夫だったかな、怖くならなかったかな、と不安にもなりました。
けれど今は、このような心の葛藤も含めて、全てが「震災を考える」ということなのだと感じます。七ヶ浜のみなさんの笑顔に触れることができて私も嬉しい気持ちになったことも、七ヶ浜のみなさんの体験談を聞かせていただいて辛い気持ちになったり、不安な気持ちになったことも、全てが「震災を考える」ということであり、今の私が感じるべきことだったのだと今は思えます。
そして、旅を終えた今でもやはり「何ができるだろう、何をすべきだろう」と考えている私がいますが、今はそれでいいと思っています。沖縄での七ヶ浜のみなさんと出会いを忘れず、話したり聞いたり、触れ合った笑顔を忘れずにさえいて、これからも今までどおり「震災を考える」気持ちを忘れずにいることが、今は一番大事なことなのかなぁと思いますし、その繰り返しの中で、きっといつか、何か行動に移せる日がくると感じました。
最後に、このような機会を作ってくださった海の学校の皆様、サポートしてくださった皆様に心から感謝しております。特に、沖縄尚学の学生の皆様には心を打たれました。純粋でまっすぐな心と最高の笑顔で盛り上げてくださった学生の皆様のハートは、直球で七ヶ浜のみなさんに気持ちが届いたと信じてやみません。そしてこの出会いが一期一会であったとしても、みんなの気持ちの中では永遠の出会いになったと信じています。
沖縄尚学のみなさんが教えてくれた、「いちゃりばちょ～で～」の気持ちを一生忘れません。

♥栄谷倫子

2012年3月25日～27日の3日間を七ヶ浜の皆さんと一緒に沖縄に行かせて頂きました。
出発するまでは、皆さんを楽しませる事ができるのか、皆さんが笑顔で沖縄を満喫してくれるのか正直不安でいっぱいでした。

3日間の沖縄の旅を終えて、色々な想いがあります。
1番印象に残ったのは２日目の夕食後に七ヶ浜の方達から、2011年3月11日に起こった地震の状況、その後・・・などの話をしてくださったことです。
私はそういった情報はテレビや新聞などからしか知ることがなかったので、実際に被災された方のお話を聞くのは貴重な体験でした。

実際あの時、沖縄を満喫しようとしていたにもかかわらず、中にはもうこの話を聞きたくない人たちや、話をしたり聞いたりすることで忘れかけていた悲しい想いが蘇ってしまった人たちもいらっしゃったと思います。
被災された方の気持ちを考えたり、実際起こったお話を聞き涙が溢れてしまいました。
そのお話を聞きことによって、家族や友人、職場の皆さん、私の周りに関わっている全ての人に「ありがとう」の気持ちを忘れず、そして当たり前な事など1つもないというのをいつも心に持たないといけないなと感じる事ができました。
３日間あっという間に終わってしまいましたが、綺麗な海、七ヶ浜の家族の笑顔、子どもたちの笑顔をたくさん見れて私が癒されてしまいました。

2日目は沖縄尚学の高校生がガイドになってくださり、とても雰囲気が明るくなり子どもたちも大喜びでした。

皆さんを空港でお見送りしたときに、私達が泣いてしまい七ヶ浜のみなさんに逆に励まされ、皆さんの人の温かさを感じました。

沖縄の旅のテーマ「ゆいまある＝絆」がぴったりの旅になりました。
皆さんが人生の一つの思い出となってくれていたら嬉しいです。
七ヶ浜の皆さんに「ありがとう」
そして、この旅に・・・「ありがとう」

♥川井　あすみ

今回、3.11の東日本大震災の被害にあわれたご家族をご招待しようという。素晴らしい企画に、海の学校の方達と共に、スタッフとしてご同行させて頂いた。文章が苦手な私、お伝えしきれないと思うが、精一杯、感想を書かせて頂く。

私にとって初めての沖縄。沖縄について浅はかな知識しか、無かった私だった。

綺麗な青い海。
しかし、現実ではサンゴが減っていて生き物も減っている海の事。
果てしなく、吸い込まれるような空。
しかし、戦闘機の爆音が轟く空でもあった事。
素晴らしい琉球文化と歴史。
しかし戦争という、悲しい過去があり、今なお不発弾、ご遺体が出ている事。

言葉の文化、食の文化、沖縄の人々の温かさも忘れてはいけない。
本当に時がゆるやかで、心がやさしくなれた。

今回「ゆいまーるの旅」の３日間だけでどれだけ沖縄を知れただろう。
ほんのちょっとだけだったかと思う。全く知れていないのかも知れない。
しかし、みんなと過ごした３日間は本当に楽しかっただけでなく、たくさん勉強させて頂いたと思っている。私は生涯忘れる事はないだろう。
帰路、私は沖縄の事が大好きになっていた、また生きている限りもう一度行きたい。

そう、七ヶ浜のご家族も思って頂ければ、本当にうれしい。

◆古賀惇一

今回ゆいまぁるの旅　に参加をさせて頂き感じた事をお話ししたいと思います。

まずは、準備をしている時の気持ちです。
私達の出しものを見て皆さん楽しんでくださるのだろうか？
手づくりのお土産、私達はとても可愛いと思っているけれど、嬉しいのだろうか？
ツアーのコース、喜んで下さるのだろうか？
私達と一緒に本当に旅をして楽しいのだろうか？
全部、自己中心的なものではないだろうか？等考えました。

でも、ツアーの案内を見、応募をしてくださった方々の集まりなので、皆さん、自分から望んで来られた方ばかり。
何か、楽しもうと思っていらっしゃる方ばかりだから、大丈夫!大丈夫！と言い聞かせてました。

そして、旅が始まりました。
皆さんと空港でお会いした時、何だかとても緊張してしまいました。
海の学校の角田さんや、他のスタッフの方々におまかせしっぱなしのスタートでした。
（それは、最後までそうだったのですが・・・・）

1日目の夜。
皆さんの笑い顔を見て、本当に楽しんでらっしゃるのかな？
知らず知らず顔色を伺っていた気がします。疑い深いですよね。
とにかく、凄くビックリしたのが、皆さんがとてもオシャレだった事。
特に子供達はとても可愛いお洋服で、神戸の子供達より可愛く、そして何より元気な事がとても印象的でした。
ここで、子供って凄いパワーがあるんだな～と思いました。
子供はウソをつかない。とても正直なので、大笑いしている姿を見て、それを見て笑っている親御さんを見て、その親御さんが笑っているのを見て子供達は嬉しそうで、何となく自慢気で。そのぐるぐる回る笑顔を見て、私達も嬉しくて楽しくて。笑顔の輪ができているなと感じました。

2日目の朝から、私は海人コースでした。沖縄の高校生が仕切ってくれて、とてもとても頑張っている彼等を見て、物事を行う際の準備の大切さを学びました。
とても熱い気持ちがビンビン響きました。
相手がどう思っているか、ばかり考えてしまっていた自分をここで大きく反省しました。
一生懸命はどんな人にも事にも通じるんだ。という事です。

初めは一方通行かもしれないけれど、一方通行と決めるのは自分で違うかもしれない。
その場では返せないかもしれないけれども、何もしないよりは絶対何かした方が良いんだ。
何気に見返りを求めていた事にやっと気付きました。

その日はホエールウォッチングに行きました。
凄いスピードで走る船の後ろには波がたちます。
それを見て、私は小さな津波に見えてしょうがありませんでした。
凄くドキドキしました。でも、皆さん、とても楽しそうだったり、船酔いして大変な方だったり、普通の船の上の光景でした。
くじらの尻尾を見て大興奮！また、心配しすぎだったようです。（笑）

こんな事ばかり考えて、一喜一憂してました。

最後の夜です。
沖縄らしい食事会。とても陽気でファンキーで！血が騒ぎました。
3.11の話しを伺えました。ずっと伺いたいけど聞けなかった。
私も阪神淡路大震災を経験してますが、その当時はその話しを何度もして、まるで、現実だったのか物語だったのかよく分からなくなるくらい話しました。
毎度涙は止まらなく、話しながらストレスを発散させていたような気がします。
その事に関しては人それぞれだという事も知ってます。
父と母でさえ話したがる人と話したくない人で異なるタイプだったからです。

今回痛感したことは笑うという事の大切さです。
笑うと人は優しくもなり強くもなり、心が豊かになり、周りの人と仲良くなる。
そして元気が出てきます！元気も貰えます。
素晴しい心のお薬ですね。
笑う時間が長くなると幸せもたくさんやってくると思います。
この沖縄はたくさん笑いました。
後1日～2日皆さんとご一緒したかったです。やっとお話しできるようになれた所でバイバイでしたから・・・

でもそのお陰でまたお会いしたいと思えるとも思います。
ＮＥＸＴを楽しみにしてます。皆さま本当にありがとうございました。
また、このような機会を与えて下さった、我らが社長にも沢山感謝しています。

♥藤田希美栄

ゆいまあるの旅を終えて、一番の思い出は七ケ浜の皆様と沖縄の方々と一緒にハーリー体験をしたことです。七ケ浜の子供達のすごく楽しそうな表情が印象に残っております。子供達と一緒に又七ケ浜の皆様と一緒に力を合わせてオールを漕いだことがとても良い思いです。初めはどのように七ケ浜の皆様とお話をしたらいいのかいろいろ考えておりましたが、ハーリー体験を通して少しずつですがお話が出来るようになっていきました。
ハーリー体験を終え、七ケ浜の皆様と一緒に食事をしたあとにホエールウォッチングでクジラを間近で見れたことにすごく感動いたしました。又クジラ以外にウミガメにも会えてとてもうれしかったです。クジラの迫力には驚かされました。
沖縄の自然の美しさを七ケ浜の子供達や皆様の心の中に残っていただけていたらとてもうれしいです。
東日本大震災で地震や津波の怖さを間近で遭った子供たちが、沖縄の海を見てはしゃいでいる姿に言葉ではうまく説明できないですが私の心の中に残っております。短い期間ですが、東北、沖縄、関西のみんなが沖縄の美しい自然の中で一緒に共有できたことがとても素敵な経験になりました。
今度又沖縄に行かせていただきたいと考えております。その際に沖縄の海について（海の生き物、海の環境等）教えていただきたいと考えております。サーフィンをしたことがないのですが、サーファーの方々のお話も聞かせていただきたいと考えております。

◆亀井慎也

初めは、協賛させて頂く側は、参加しないほうがいいかも？と思ったりもしましたが、私なりに準備を進めるにつれ、あれこれ考えるのではなく、たとえひとときでも参加されたご家族が、楽しく過ごしてもらえたらいいなと思い参加させて頂きました。

旅行が1日目、2日目と過ぎ、初めは緊張されていらした七ヶ浜のご家族の皆さんの表情がいきいきと輝いてくるのを見て、こちらまで嬉しくなりました。
1つだけ残念だったことは、島人コースの中に、本当は海人コースの方に行きたかったというお子様がたくさんいらしたことです。

この企画を通して、自分たちではできないことでも、たくさんの方々の協力によって成し得るということ、なにより参加されたご家族の皆さんと関われたこと、つらい体験談を教訓としてお話頂いたこと、それなのにたくさんの笑顔をもらえたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の企画は特別なことでしたが、これからも、細く長くできることを続けていきたいと思いました。

♥岩田真佐美

３日間で七ヶ浜から参加された皆さまのお顔に変化を感じました。
初日にはまだまだ少なかった笑顔が最終日には笑顔いっぱいで、飛行機の搭乗口過ぎた辺りまでお見送りさせていただく私たちに手を振って頂きました。
皆さまの笑顔が見られて心から嬉しく思いました。
九州にいる私が遠く離れた東北の被災された方々の生のお話を聞けたことは大変貴重なことでした。

七ヶ浜の皆さま、沖縄尚学の皆さん、沖縄の地元の方々そしてスタッフ一同、それぞれに「縁」があっての旅だったと思っています。
良い縁、悪い縁、いろいろな縁があるかもしれませんが、命あれば人と人は繋がるもの、そう感じました。
「ゆいまあるの旅」に参加させていただき本当に良かったです。

♥峯　愛

みなさん、お久しぶりです！　「エエ声」のアドヴァンシング：尾島です。
今回の「ゆいまーるの旅」に参加させていただき本当にありがとうございました。

私は最初、“皆さんと　どんな想い出を作ればよいのか”　と考えながら飛行機に乗っていました。
計画どおりイベントやツアーで３日間をすごし旅が終わり、２週間がたち皆さんの顔を思い浮かべながら今感じていることは、沖縄の景色やイベントの記憶だけではなく、いろいろな人の思いやりで作られた想い出は、鮮明に心に刻む力がある事でした。

ハーリー体験でみんなが掛け声を合わせ漕ぎ出した時の海の上を滑るようなスピードや顔にかかる塩水も、クジラを追いかける船の揺れや、光で輝くクジラの背中も夕日に輝くサーフボードの上の子供たちのシルエットも、思い浮かぶ記憶の中には、七ヶ浜の皆さんの笑顔の横にスタッフやボランティア・サーファーの皆さんの姿が必ずありました。
初日ぎこちなかった子供たちの行動や、笑い顔、子供らしいいたずらも　日ごとパワーを増していき、その姿を見守る家族の皆さんも、同じように心から旅の楽しさを受け入れるように　そして表現するように成られたのも、参加された方皆さんの思いやりの心が感じられたからではないかと思います。

沖縄好きの私が海に入らず過ごした初めての旅でしたが、今回は沖縄の海の暖かさではなく　人のぬくもりの心地よさを感じた３日間でした。

最後に「エエ声」で、「これからも、いろんな思い出をいっぱい作りましょう！！」

◆尾島　仁

今回の旅で思ったことは、まず一番は被災地の方々、またその子供たちがほんの一時でも日常を忘れ、楽しい思い出をたくさん作って頂けてたらいいなということです。
私は、今回のようなご招待させて頂く側の立場として参加するのは初めての経験でしたが、色々な体験をさせて頂くことができ、また被災地の方々、沖縄の方々と普段ではなかなか交流しあえない方と接することができ、とてもいい経験になりました。
ただ今回限られた方々しか参加出来なくて、残念ながら参加出来なかった方のことを思うと、今度はまた違った形で全員の方々に何かお役にたてることができればいいなとも感じました。
（今はただ漠然とですが…）
そのような機会がありましたら、また是非よろしくお願い致します。

◆杉本〇〇

以前から「海の学校」で色々なイベントなどの活動されているのは知っておりました。
今回、沖縄への参加させて頂いて、色んな人達に出会え、沢山の人達が色んな形で活動されているのを知り、「日本もまだまだ、捨てたもんじゃない」と感じました。
自分が何に貢献したかと言われると何もしておりませんし、具体的に何も出来ない自分が参加する意味があるのかと自問自答した事もございますが、皆様から情熱や優しさ、そして強さなどを近くで感じ嬉しく思いました。
やはり、笑顔は素敵ですね。はじめは皆が緊張しておりましたが時間がたつごとに笑顔の数が増え、見ている私も笑顔になりました。
笑顔に囲まれると幸せな気分になります。
また、皆が笑顔になるお手伝いが有りましたら、大きな事は出来ませんが私なりにお手伝いしたいと思います。
この度は素敵な機会を与えて頂いて、有難うございました。

♥上原〇〇

（敬称略）